

f c t

# GAZETTE

1993. 8

vol. 13

Number. 50

ガゼットは  
テレビと市民  
のデータバンクです

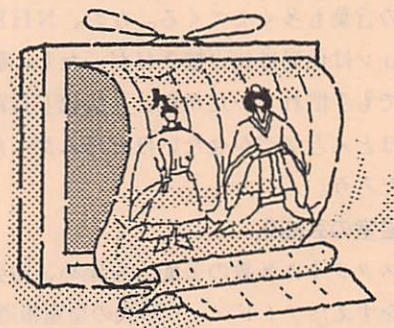
複写（コピー）は  
ご遠慮下さい。

編集・発行/FCT市民のテレビの会(Forum for Citizens' Television) 編集委員会 責任者・鈴木みどり  
発行所・神奈川県葉山町長柄1601-27 購読料/年間(4回発行) ¥2000(送料共) 一部 ¥500(送料別)  
第一勧業銀行返子支店(普通預金1425785) 郵便振替 東京9-84097

## ■ 特集1.

### 「結婚の儀」テレビ報道を読み解く

### — みえてしまった各局の体質 —



1993年6月9日(水)のテレビは「麗しプリンセス誕生」「華麗なる祝典完全中継」「ご成婚スペシャル」「平成TV絵巻」…と、皇太子と小和田雅子さんの結婚を“世紀のイベント”と位置づけて、またまた大報道合戦を展開した。

結婚の儀、朝見の儀、祝賀パレードと、正味にして計1時間余りでしかないものを、通常のワイドショー枠も使って最長13時間30分(TBS)短くても6時間(テレビ東京、NHK)に引き伸ばして編成されたこの日のテレビ。定時のニュース番組も各局この出来事にかなりの時間を費やしたから、同じ映像のコピーがまた同じように全局

の画面から溢れ出るようになった。

皇室のイベントとなると、テレビは、いつも、こんなふうに横並びで、それでいて全力投球の取り組みをみせる。なぜ、そうなのか。FCTでは、今回のイベントを好機ととらえ、これからもワイドショー等で繰り返されるであろう皇室報道を視聴者として読み解くための資料にするため、この日のテレビを、全局、早朝の放送開始時から深夜の12時までVTRに録画することにした。そのなかから、『ガゼット』発刊50号目となる本号では、祝賀パレードを中心に検証し、見えてきた各局の報道姿勢・体質について報告する。

## ■ CONTENTS ■

### ○ 特集1

- ・「結婚の儀」テレビ報道を読み解く……………1
- ・高校生は「ご成婚」報道をどう見たか……………7

### ○ 特集2. TAPでアクセス

- ・どこへ、いつ、どうアクションをおこすか…9

### ○ 特集3

- ・「クレヨンしんちゃん」と「ウゴウゴルーガ」

—最近の子ども番組から—……………10

### ○ FCT会員コラム・メディア時評

- ・テレビCMは鼻で見よう!……………12

### ○ FCTデータバンク

海外篇……………13

国内篇……………14

イラスト 市川雅美



## ●皇室の伝統・権威

映像がNHKと民放合同の2種類、それも似かよったものでしかなかった30分の祝賀パレード。他局との差は自ずからナレーションとそれに続くスタジオトークに現れた。全局が皇室の伝統と権威を肯定していたが、重点の置き方は微妙に違った。その手がかりとして、ナレーション中に出てくる「34年前」という言葉の回数を調べた。結果は多い順に：日本テレビ12、フジ10、NHK9、テレビ東京6、TBSとテレビ朝日が共に5、となった。回数の多い局ほど「天皇皇后両陛下」「菊の御紋」「日の丸の小旗」「万歳の喚声」等の言葉も多くでてくる。なお、NHKのナレーションは他局に比べ控え目だったし、敬語の使い方でも手慣れていたので、「伝統」肯定を視聴者にほとんど気づかせないほど巧みだった、といえるだろう。

## ●皇室の芸能化

スタジオに多数の芸能人を集め、司会にも芸能人をすえたワイドショー形式の皇室報道はTBS、フジが得意とするところ（p.6の表参照）。これに日本テレビを加え、民放三局は皇室を視聴率をとるための「商品」に仕立て上げる術を知っている。しかし、皇族を身近で、親しみのある「憧れの対象」とすることで“開かれた”皇室が実現すると考えるのは、単純すぎる。皇室の芸能化が新たな神格化につながる恐れは十分ある。実際、この日に登場したTVタレント・文化人、芸能人は「おきれい」「美しい」「おとぎ話のお姫様のように」…と口をそろえ、皇太子妃となった女性の外見・容姿というステレオタイプな価値観にのみ関心を集中させていた。これは、天皇制をめぐる社会的議論から人々の関心をそらすことにつながる。

## ●美人アナ11人

「世紀のパレードを実況でお伝えするのはJNN選りすぐりの各局の美人アナウンサー11人」と、全員女性による中継を売り物にしていたのがTBSと日本テレビ。女性の起用は大いに歓迎するところだが、それが主として若さと外見を基準にして選ばれた（したがってほぼ全員が20代）

実況経験もほとんどない女性たちというのには驚いた。技術も敬語にもわか仕込みではミスの連続で当たり前だが、それを「若い女の子だからご愛嬌」と許してしまうテレビ局の体質、女性の平等からはほど遠い雇用環境が、視聴者に見えてしまった。

## ●語彙の貧しさ、ステレオタイプな表現

「輝かしい」「華やか」「にこやか」「晴れやか」「りりしい」「どうどうとしていらっしゃる」…と、どの局のナレーションでも二、三の形容詞がなんども繰り返して使われていた。この言葉の貧しさに加え「花嫁を連れて帰っていらした」、皇太子は「男らしさをもって後ろから…包み」こみ、「雅子さまは…可愛らしさを含めた笑顔で」沿道の人々にこたえる、というような男女の役割分業（ステレオタイプ）を肯定する表現が目立っていた（具体例はp.3以下）。

## ●勝手な推量と断定、思い込み

「恵の雨で空気がとっても澄んでいます」「皇太子妃らしい気品と知性が感じられる表情です」「外交官としてのキャリアを皇室で役立たせたいと話された雅子様」「感動のあまりすわりこんでしまう人たちも」と、推量や思い込みで断定的に説明するナレーションも多かった。これは、留意を要する皇室報道の落とし穴である。（具体例はp.3以下）。

## ●各系列の取材陣（『民間放送』93.6.13より）

▽NNN：1）人員800人（内中継スタッフ400人）2）中継車30台、3）カメラ57台、4）ENGカメラクルー50班、5）ユニヘリコプター2機、6）参加系列社数（キー局除）15  
 ▽JNN：1）400人（同150）2）17台、3）31台、4）40班、5）1機、6）6社  
 ▽FNN：1）800人（同400）2）35台、3）90台、4）47班、5）1機、6）6社  
 ▽ANN：1）800人（同400）2）42台、3）82台、4）50班、5）2機、6）9社  
 ▽TXN：1）200人（同100）2）10台、3）20台、4）20班、5）なし、6）なし。  
 ▽NHK：電話での問合せには解答しないという。



## <日本テレビ>

- 婚約の記者会見で、私たちが逆に驚いてしまうほどご自分の考えを率直に述べられた皇太子様。そして、外交官としてのキャリアを皇室で役立てたいと話された雅子様（桜田門、中継アナ、女）
- アッ、三宅坂の交差点をお二人が通ってまいりました。本当にこやかな…（中継アナ、女）
- 皇太子さま雅子さまのオープンカーに乗ったその存在がはっきりとわかります。お二人の姿を見ることができない警官の方々がかわいそうにさえ私は感じてしまいます。（半像門、中継アナ、女）
- 皇室の方々を間近にみる機会はそれほど多くはありません。しかし皇太子さま雅子さま、これほどの晴れやかな表情を見た人は今までいたことでしょうか。（麴町4丁目、中継アナ、女）
- 感動のあまり、座り込んでしまう人たちも出てきました…白い歯のこぼれる雅子さまのお口元。そして大変晴れやかな皇太子さまのご表情。この日この一時が、みんなの胸に刻み込まれることでしょうか。（同）
- 沿道の人の興奮はなり止むことはありません。喚声とも悲鳴とも聞こえる声が、あちこちから沸き起こります…こんな嬉しそうなお二人をナマで見たことがあったでしょうか。喚声が一段とたかまってまいりました。（四谷見附、中継アナ、女）
- お二人とも後輩たちの姿をみつけることができたでしょうか。手を振っておこたえになってさしあげたでしょうか…33年間親しんできたこの離宮の森に花嫁を連れて帰っていらした殿下の瞳に、いつも見慣れた街路樹の森も一際、輝いて映ることでしょうか…（鮫ヶ崎門、中継アナ、女）
- 今日のこの喜びに満ちた表情の雅子さまのお顔を拝見しますと、殿下の深い愛を思わずにはいられません。雅子さまという強力なパートナーを得て、皇太子さまは両陛下の邁進された新しい皇室作りを、より確かなものにされるでしょう…まさに大船に乗ったお気持ちで皇族としての第一歩を歩み出される雅子さま。ご公務においても、その才能を遺憾なく発揮されるのではないのでしょうか。（東宮仮御所、中継アナ、女）

## <TBS>

- 想像していたよりも涙は少なかったですね。（三雲孝江）。この日のために今迄生きていたという感じですね（浜尾元侍従、小和田家出発の折）
- 雅子さん、あ、まちがった雅子さまは……（新潟村上市の中継アナ・女、賢所の儀のあと）
- 雅子さまのお出まし、首を長くして、キリンのようになってしまいそうです（中継アナ・女、皇居前）
- このお二方を頂く日本人に生まれてよかった（皇太子学友・男、朝見の儀の後）
- ネックレスに負けない位輝いていらっしゃる雅子さま、すてきでしたねえ（富司純子、朝見の儀）
- これはなんていうんでしょう、バッジというかメダルというか、そういったものなんですか（渡辺眞理アナ、宮内庁前で雅子さまの勲章について）
- 世紀のバラードを実況でお伝えるのはJNN選りすぐりの各局美人アナウンサーが11人、気合いの入った彼女たちは2週間前から綿密な打ち合わせをしてきました。三宅坂担当は新婚間もないTBSの畑、名古屋CBSの花柳川、ワイドショーからバラエティまで幅広くこなす才媛の大阪MBS高井（報道中継アナ・女の紹介）
- 雅子さま皇太子妃として我々の前にナマでお姿を見せてくれるのももうすぐです（中継アナ・女）
- 祝福する気持の一つ一つがどうか届きますように、お祝いする気持が大きな幸せとなってお二人の上にふりそそぎますように。お二人の乗られたオープンカーが橋を渡って玉砂利の道を、お二人の幸せをかみしめるようにそのタイヤをふみしめています。（中継アナ・女）
- たいへんな決心をしてこの日を迎えられた雅子さま、胸をよぎるのは新しい生活への不安でしょうか、期待でしょうか。それともなんとしても幸せになってほしいと送り出されたお父さまたちのことでしょうか（中継アナ・女、仮御所前で）
- とどこおりなくとおよろこび申し上げたいと思います（富司）
- すてきでしたねえ。私にもとても長かったしあつという間の感じでもあった1日でした。（浜尾）
- 女性が変わっていく姿をまのあたりにしました。（石坂）



## &lt;フジテレビ&gt;

- 私は1月6日から6月9日までほぼ半年近く、ほとんど毎日このお宅の前にまいりました。私自身深い感慨を覚えますけれど、それよりも、にこやかに、さわやかな表情でこのお宅の玄関に立たれた時、もう雨が降っていようと関係ない。この素晴らしさは……(レポーター武藤まき子)
- 私、皇太子殿下にお会いした時、日本人の血が騒ぎましたよ。(泉ピン子)
- 世の中に厳粛なうちという形容詞がありますが、あの形容詞の最大級、最も厳粛(海部俊樹)
- アッ来た来た、キラキラしている、威厳が備わっている。不思議な気持です。(斎藤由貴)
- 太陽が出てらした(森光子)
- ウソウソウソウ……すごい。来た来た(喜多嶋舞)
- 喜ばしき輝き。心のやすらぎのある、お幸せな感じがしました。雅子さまも知的で素敵な方です(ブルックシールズ)
- 国民のひとりとしてまことにおめでとうございます(月光仮面)
- 雅子さんらしさというのを常に失わないで、真っ直ぐ歩いて行っていただきたい(沢口靖子)
- 一生の思いで、家宝です(50代男性)
- まさに現代のシンデレラ、素敵なカップルとしてお過ごしいただきたい(堺正章)
- 皇太子様においしいふるふき大根を作っていたきたいと思います。(桂三枝)
- おごそかな美しさ。そして柔らかな美しさ。色々な雅子様のお姿にお目にかかってまいりましたが私はこのローブデコルテをお召しになったこのお姿が一番美しいと存じます。(中継アナ・女)
- およそ150のビルの立ち並ぶビルと大観衆。その中心には、皇太子様と雅子様の華やかな笑顔があります。まさにドラマティックなクライマックスを迎えています。みごとなお二人の素晴らしい笑顔。打ち寄せた両サイドを埋めつくした大観衆から大歓声が湧きたっています。(中継アナ・女)
- 皇太子様、雅子様ほんとうに素晴らしい感動をありがとうございました。ほんとうに感動しましたね(森光子)

## &lt;テレビ朝日&gt;

- 天皇家の始祖である天照大神(岸田・ナレ)
- 今日小和田家は3親等の範囲で列席を許されております。(神田)
- ここに雅子さまの姿が見えますと、その瞬間皇太子妃が誕生するわけです。(同)
- ここ銀座は皇居から一番近い町として皇居のお膝元という意識のある町なのです。(中継アナ・女)
- 厳かな結婚の儀の中でおふたりはおそらく言葉交わすどころか、目と目を合わせるとい瞬間もなかったかと思われるのですが(中継アナ・男)
- まあお先触れパレードという感じで(中継アナ・女)
- 天皇を尊敬する国民のひとりとして私も皆さまとともに心よりお慶び申し上げます。(松平健)
- 日本の国民のプリンセスとしてこれは言うならば日本の顔ですよ、国際的な新しい顔になって日本からのメッセージを送ってくださるといことは女性としてすごいと思います。(木原光知子)
- 皆がきれいなお嬢さんと誉めてるぞー。オラが20年早く生まれていたら雅子さまーをお嫁さんにしていたのになあ(挿入されたアニメ・クレヨンしんちゃん)
- 4時半にオープンカーだと決まり、報道陣も明るい笑顔になりました。(中継アナ・女)
- 今カメラの目の前を通られます。何というすばらしい美しさでしょう。(中継アナ・男)
- お二人の結婚を祝うたれ幕……通り沿いの25台の公衆電話も金色に御色直しを済ませております。(渡辺アナ)
- 雙葉の中高生400人が白いマーガレットで雅子さまをお迎えになったからだと思います。おふたりにははっきりと見えたことでしょう。(同)
- 結婚の儀、朝見の儀で見たリンとした表情は本当にあでやかなそして晴れやかな表情です。(同)
- 多分、雅子さまが本当にすばらしいお顔の表情をされているので皇太子さまにもそういう余波がきて、にこやかにされたのではないのでしょうか。(学友・男)
- 私どもテレビ屋、テレビ界にとって、こんな大きな出来事はありませんで……(愛川欣也)
- 日本中が同じ事を心配する気持になれたなんてまた久しい事でした。本当によかったです。(同)



### <テレビ東京>

- 「平成のクラウン・プリンスそしてクラウン・プリンセスのお二人が乗られた…」(中継アナ・女)
- 「皇居前広場の国民の待つところへお二人の車が曲がってまいりました。」(中継アナ・女)
- 「1月6日の内定報道以後、笑顔は見せられても華やかな感じという表情はなかったですね。やはり緊張もあってか…。あるいは立場も考えて…」(司会者・男)
- 「報道が白熱したあの時期の感じと全く違い、思ったよりずっと可愛い感じ…」(ゲスト・男)
- 「雅子さまの笑顔の方もお友達と一緒に過ごしてらっしゃる時の笑顔に戻ったわけですね。」(司会者・男)
- 「今回のパレード…本当にしっかり前例に則って様式がもうすっかり落ち着いてですね、安定したかたちで動いているという…」(ゲスト・男)
- 「でも私、外務省時代にパシッと仕事で大股で歩いておられたあの時も非常によろしかったナ、と思うんですね。颯爽としておられたナァという気がするんですけどねえ。」(ゲスト・男)
- 「あ、思わず雅子さま皇太子さまのお姿を見て、手を合わせて拝むような姿をしているご老人の方もいます。」(中継アナ・女)
- 「皆さん、白旗をふって雅子さーん、皇太子さまーと声を張り上げています。」(中継アナ・女)
- 「特に幼い女の子なんかは、本当におとぎ話のお姫さまを見ているような気持ちになるでしょうねえ。」(司会者・男)
- 「男らしさを持って後ろから目に見えないもので包み込んでいた皇太子殿下。はちきれんばかりの可愛らしさも含めた笑顔に沿道の皆さんにお見せになっていた雅子さま。」(司会者・男)
- 「お二人の人生はお二人だけのための人生じゃないわけですね。これからは国民全体のためを思わなきゃいけない人生、世界の平和を思わなきゃいけない人生だということを、それはもうご本人はよく知ってらっしゃいますけども、国民一人一人もきょうこの日にですね、自覚を新たにすべじゃないかと…」(ゲスト・男)

### <NHK>

- 広場に集まった人のなかには「雅子さまを間近に見たい」という独身のOLや「3歳の子どもに記念にみせたい」という皇太子さまと同年の父親もいました。(皇居前広場、中継アナ、男)
- 34年前も連日の雨が嘘のように晴れ、今日も晴れたんです。なんだかとても不思議の国に私は生まれたんだなア、と(三宅坂、中村メイコ)
- 想像ですけども、オープンカーにお乗りになる時に、皇太子さまが「先に乗りますよ」っておっしゃったのではないかと…そういうところにも、とてもレディファーストの配慮がなされて(同)
- 目黒区から友達ときたという女性は「雅子さまはキャリアウーマン。自立した女性として私たちの憧れの的です」と話していました。(四谷見附、中継アナ、男)
- 東宮侍従の一人は「ご幼少の頃からおつかえしてきただけに、喜びもひとしおです。今日の日の皇太子様の笑顔を長く私の記憶に止めておきたい」と話していました(東宮仮御所、中継アナ、男)
- 雅子さまは、妃殿下は、雅子スマイルといって宜しいんでしょうかね。ずっと自然体で…簡単にいえば、至福という言葉を久し振りに思い出させていただいたと思います。(ゲストの学友、男)
- …やはり、日本の新しい皇室というんでしょうか、きちんとしたエレガントな装いをして下さることを願っております。(ゲストの森英恵)
- 妃殿下の王冠、ティアラがものすごくよくお似合いですね…それからね、福沢諭吉の言葉を思い出したんですよ。「われ一代にして二世を経たり」といいますね…そのように、皇室というのは続いていきます。とても上手に続いていくんじゃないかなァ、という感じがします(ゲストの草柳大蔵)
- そこらへんが草柳さんのお二人への期待という感じでしょうか？(司会のアナ、川端義明)
- ええ、そうなんですよ。この聡明さとね、このご自分の自己定義といいますか、足の位置がきちんと自覚できる女性というのは、ステレオタイプにはならない。恐らく、新しいライフスタイルをお打ち出しになると思いますよ。(草柳大蔵)



## 6・9「結婚の儀」特別番組・局別一覧表 （・印はキャスター）

### <日本テレビ>（計13時間）

**番組タイトル** 麗しプリンセス誕生！！14時間テレビ・第1部ジバングの朝旅立ちの雅子さんへズームイン(5:59-8:27)/第2部“結婚の儀”完全生中継・愛の誓いはいま頂点に(8:27-11:55)/第3部あなたが選ぶあの日あの時・御成婚までの軌跡100・爽やかご成婚パレード魅力いっぱい総力中継(11:55-17:30)/第4部NNNプラス1スペシャル・華麗なご成婚雅子さま誕生特別完全保存版(17:30-19:00)

**主な出演者** ・福留功男、徳光和夫、関谷亜矢子、中村慶一郎（解説）、ニューヨークからハーバード大学友2・齋木かおり、久能靖（解説）、渡辺みどり、バーバラ寺岡、学友2、ハーバード大恩師、酒井和歌子、松原千明、篠沢秀夫、出羽の海理事長、毛利衛

### <TBS>（計13時間30分）

**番組タイトル** 華麗なる祝典完全中継「雅子妃殿下誕生絵巻」第1部・結婚の儀へ(5:45-7:00)/ビッグモーニング(7:00-8:30)/第2部・厳かに結婚の儀(8:30-11:24)/第3部・華麗なるパレード(12:00-17:55)/第4部・皇太子妃誕生物語・美智子さまお喜び新た・世紀の祝典を全再現(19:00-20:54)

**主な出演者** ・石坂浩二、・三雲孝江、・竹下景子、富司純子、浜尾元東宮侍従、成合由香（皇室記者）佐藤直子、きんさん・ぎんさん、貴の花、柿沢弘治、三浦和良、森口博子、学友4、西村和美、若尾文子、和田アキ子

### <フジテレビ>（計11時間55分）

**番組タイトル** 皇太子さま雅子さま、今日ご結婚(6:00-7:30)/おはようナイスディ(8:30-9:55)/皇太子さま雅子さま結婚の儀(9:55-11:30)/御成婚スペシャル永遠の誓い愛の歌特集(12:00-13:30)/皇太子さま雅子さま朝見の儀祝賀パレード(14:00-18:00)/皇太子さま雅子さま御成婚スペシャル(19:00-20:54)

**主な出演者** ・上田昭夫、・川端健嗣、・児島奈津子、・高島忠夫、・寿美花代、・露木茂、・森光子、神田利実（皇室キャスター）、学友4、佐藤直子（テニスプレイヤー）篠沢秀夫、泉ピン子、石川さゆり、谷村新司、さだまさし、チャゲ&アスカ、西田ひかる、東山紀之、荻原健司（スキーマダリスト）、紺野美沙子、平山郁夫、海部前首相夫妻、森英恵、中村吉右衛門、斎藤由貴

### <テレビ朝日>（計11時間45分）

**番組タイトル** 皇太子妃きょう誕生(6:00-6:45)/スーパーモーニング慶祝・平成プリンセス誕生(8:00-9:30)/平成TV絵巻・皇太子ご結婚(9:30-11:25)/ニュース・キャスター結婚の儀完全速報(11:30-12:55)/平成TV絵巻「カメラ100台が追う！世紀のロイヤルパレード完全実況生中継」速報！（14:00-18:00）/見た！！TV大絵巻放送史上空前大取材皇太子ご結婚全映像集ノーカット保存版(19:00-20:54)

**主な出演者** ・渡辺宣嗣、・連舫、・田丸美寿々、・蟹瀬誠一、愛川欽也、学友5、松崎敬弥（皇室ジャーナリスト）宮本忠雄（皇室担当記者）岸田秀夫、中村あずさ、中村メイコ、神津善行

### <テレビ東京>（計5時間55分）

**番組タイトル** ご結婚へI(6:00-6:55)/皇太子さま雅子さまご結婚中継IIプリンセス誕生その時お二人は・厳粛な儀式徹底解説・ご両親記者会見(9:30-11:00)/ニュースワイド11・ご結婚完全生中継(11:00-11:30)/皇太子さま雅子さまの熱き青春(11:30-12:00)/皇太子さま雅子さまご結婚中継III皇居から新居へパレード全行程完全映像(14:55-17:30)

**主な出演者** ・久保田麻三留、榎徳子、安田元久・学習院大前学長、学友3、元皇室記者・若松稔、（毛利衛、出羽の海理事長、宮沢首相インタビュー映像で）

### <NHK>（計5時間55分）

**番組タイトル** 皇太子さま雅子さま結婚の儀(8:30-11:00)/ロイヤルコレクション(14:15-14:45)/皇太子さまご結婚(14:45-17:40)

**主な出演者** ・川端義明、・森田美由記、学友4、草柳大蔵、森英恵、中村メイコ、神津善行



FCTフォーラム記録

## 皇室報道を読み解く

'93.5.28 飯田橋  
東京都女性情報センター

昨年FCTが中心になって翻訳出版したカナダのオンタリオ州で使われている教師用のメディア教育リソースガイド『メディア・リテラシー』は、これを手にした人たちに大きな関心を呼び覚ました。「日本でもぜひこういうものを作らなければいけない」という声を受けて、ともかくも「メディア・リテラシー」を読み込んでこれをどう使いこなすか考える会を持とう、という趣旨で今年度のうちに3、4回のフォーラムを計画している。

今回はこの第1回として、折からテレビを席捲している皇室報道をテーマに取り上げた。

司会・鈴木みどり

テレビをクリティカルに読み解くことがいかに大切なことか、実際に作業をしてみることで参加者の皆さんと話し合ってみたい。そこで「納案の儀」当日の夕方6時からのTBS「ニュースの森」でどう報道されたか、まずVTRを見て、用意したチェックシートに記入し、それをもとにグループに分かれて話し合い、まとめて下さい。

- ◎シートの記入方法説明担当・佐々木はるひ
- ◎VTR15分の報道を2度繰り返し視聴
- ◎各グループ6、7人に分かれて記入し話し合い。
- ◎3グループの主な報告と提案一

●普段は使用しない「おぐし」など大げさな言葉、形容が目立った●街の声として取り上げる時中年の女性はいつもオバサンとしてミーハー的な発言をとるのは一種の役割固定である●シートに情報の商業化について記入できる欄があるといい、雅子さんのファッションなどを詳しく伝えることで宣伝に利用されている要素がある●儀式は3分それも代表取材で伝えられるだけ、その後皇居でなにが行われたかフォローしてないので、全体がわからない。報道も一日を追っているといいなが

らニュースの森ではなく“木”位しか伝えていない○不必要な情報という記入よりも足りない情報としたほうがよいのではないか○12000人記帳したといったが、いかにも多いという報道の仕方にひっかかる。見方をかえれば1000万都民のたったそれだけ、警備に当たった警官が26000人です。テレビの画面を見ているといかにも大勢押し寄せたと思ってしまう、こういうところを読み解く必要がある

## □皇室報道を読み解く手がかりを提案

湯口隆司・「メディア・リテラシー」を使って私なりにまとめてみたので……

○皇太子妃報道の自粛協定によってメディアへの国民の信頼、知る権利はどうなったか○皇室報道の差別化とメディアの対応を読みとる（家系図など）○皇室外交、結婚による経済的効果など、皇室報道の政治、経済関連、メディアが描く幻想を理解する○意図的な差別化とそのシステムを見出す。天皇家の一系の歴史を強調し、異質の儀式を神秘化して報道することで国民との壁を作っている、マスメディアがこれを強調し「ひらかれた皇室」に逆行させている。

司会・今回のチェックシートは今日の結果を勘案してさらに検討し、今後皇室報道のある折りにはいつでも使えるようなものとして確定しておきたい。

参加者からも多くの意見が出されたが、スペースがなくて紹介しきれない。多くの人たちでこのチェックシートを記入し、その結果をオルタナティブな意見として新聞などに発表してはどうか、といった提案も出された。

## 高校生は

「ご成婚」報道をどう見たか

熊田 亘（志木高校教諭・FCT会員）

フォーラムに参加した熊田さんから「勤務する高校で6月9日に新聞とテレビウォッチングさせました」という報告が送られてきた。熊田さんは「かなり事前学習をしたつもりなのですが、マスメディアのパワーにはかないません。ますます



メディア・リテラシーの重要さを感じます」として教員の勉強会用に作った資料を提供して下さったもの。以下にその一部を紹介したい。

この授業を行ったために、クラス担任に対して現代社会の授業が偏向しているのではないか、という保護者の意見も寄せられた、とのこと。

●6月9日までに4時間天皇制について、日本国憲法・皇室典範、皇室経済法の内容を中心として講義。当日は皇室報道のテレビを30分以上見て、新聞を一紙以上読み、レポートを作成させた。

●授業の目標・憲法の条文に照らして皇太子ご成婚や天皇制について考える。ご成婚がどのように報道されるか自分の目と耳で確認し皇室報道について考える。予想される偏向批判に耐えられるように、個人的な主張は絶対にさしはさまない。

●レポート提出者は81人（全体90人）

●視聴したテレビ（それぞれ重複と無解答含む）  
フジ…32人、TBS…24人、NHK…10人、テレビ朝日…10人、NTV…9人、テレビ東京…0、

●視聴時間

0-30分11人、30-1時間33人、1-2時間24人、2-3時間4人、3時間以上3人。

●読んだ新聞

読売…42人、朝日…22人、毎日…9人、産経…3人、東京…2人、日経…1人、聖教…1人。

●レポート用紙の内容

どのような構成になっているか。どのような人々が登場して、どんな話をしたか、主な人物についてメモをとる。皇太子の婚姻関係の記事の見出しを各面ごとに抜き出して書く。投書面、社説を中心にどんな人がどんな意見を示しているか、要約する。新聞とテレビで面白かった点、気になった点、疑問に思った点を箇条書きにする。事前に授業でやった内容とあわせて感想を書く。

●まとめとして

- ・憲法と結婚の儀・天皇制との関係にふれている意見等…20人。（皇室の私的な部分と国家の公的な部分をどう分けるか、むずかしいと感じた等）。
- ・法のもとの平等に関わる意見…5人。
- ・皇族の基本的人権の制約に関わる意見…8人。

・結婚の儀報道に関わるマスメディアのありかたに対する意見…38人。（好意的6人、画一的過剰報道への批判11人、こんなに報道するのだから大切なできごとなのだろう3人、アナウンサーやゲストなど出演者への批判7人、新聞とテレビの違いに言及する意見4人、など）

先生も驚いたこと……

「授業はテレビにかなわない」というのが率直な感想である、と報告は以下のようにまとめてある。

●多くの感想は「きれいだった」「幸せそうだった」といった域をでないが、これは新聞、テレビの報道そのものがそれ以上の情報を流さないことと関係がある。

●テレビ、新聞を視聴しながらその情報を憲法に照らして受けとめようという姿勢が見られたのは4分の1程度の生徒だけだった。メディアが皇族と民間の違いを強調したことで「雅子さんはかわいそう」という印象をもたせたという例もあった。

●結婚の儀のありかたに批判的な人々の存在に生徒が気付いたことは（それに対してどういう意見をもつにしろ）よかった。生徒の反応を見る限り今回の報道は国民のなかの多様な意見を反映させようと努力していたようだ。

●メディアの報道の仕方について論評している生徒は半数近く、なかでも画一的過剰報道に対する批判は多かった。

●予想していなかったことだが、テレビと新聞という異なる種類のメディアを使ったことで、その違いに注目する生徒がいたのには驚いた。

●こんな意見

「もし授業で新聞の読み方や天皇について勉強しないで結婚の儀のテレビを見たら、きっと只ボーッと見ているだけだった。以前よりニュースや新聞を見ることが楽しく思えてきた気がする」。

（文責竹内）

この報告資料の詳しいものを希望の方は  
府中市武蔵台2-32-15第5 パールハイツ 201  
熊田さんまで返信用封筒を添えて。



## ■特集2

## 「TAPでアクセス」視聴者の権利

## どこへ、いつ、どうアクションをおこすか

前回TAP (Talk, Act, Participate) の活動については詳述したので、今号では具体的なアクションをどう展開するかをとりあげてみたい。

テレビ局に電話をしたことがある人なら、まるで木で鼻をくくったような不愉快な応答をされた経験をもつ人は少なくないはずだ。たらいまわしにされ、やたらに待たされ、多くは不得要領で終わって釈然としない思いが残る。「でも1日に何百本と電話がかかり、酔っぱらいや一方的なお説やバカ呼ばわりの相手をさせられる身にもなって下さい」テレビ局の視聴者応答係の人たちも嘆いていた。なぜこうも不幸な間柄になってしまったのだろう。視聴者がもっとテレビのパートナーとしての意識をもち、上手なTAPでアクセスが出来るようになれば、この不幸な関係はずっと改善されるに違いない。

●電話をかける時——何を言いたいかどうしてほしいのか要点をメモしてからかける。

●FAXを送る時——読んでほしい担当を明記し出来れば発信者の名前、連絡先も書く。

●葉書又は文書——最も確実に担当者に届く。発信者も明記する。回答を求めることも出来る。

●気をつけたいこと——出来るだけ感情的な表現ではなく、事実を論理的に展開する。／相手を否定するよりも提言の方が有効だ。／回答がほしい時には返信用封筒に切手を貼って入れるとよい。／怒った時に書くばかりではなく、よかった時にも積極的にほめる。北風よりも太陽のやり方がとくに日本のマスコミには有効のようだ。

●テレビのパートナーとして表現する権利がある視聴者なのだから、受け手と卑屈にならず堂々とアクションをおこそう。

## ●どこへ表現すればよいか一覧

●放送 110番 FAX 03-3355-0467, 民放労連が24時間受付。番組やCM、放送局への意見。

●視聴者の意見 FAX 03-3264-2690, 民放連番組部、放送番組調査会。

文書宛先は千代田区紀尾井町3。視聴者からの意見として月報などにも一部が掲載される。

●CMについての意見や提言 FAX 03-3263-3786、電話 03-3263-3784。

夜間の留守電をふくめ24時間対応。全日本シーエム放送連盟(社団法人)が受け付ける。

●日本広告審査機構 (JARO), FAX 03-3541-2816, 電話 03-3541-2811

中央区銀座2-16-17 第3恒産ビル、広告についての苦情、意見を受付。

●NHK視聴者センター 電話 03-3465-1111, 9時-22時全日受付。渋谷区神南2-2

●日本テレビ視聴者センター 電話 03-5275-1111, 8時30-19時30、土日は留守電、千代田区二番町14

●TBS視聴者センター 電話 03-3584-3111, 10時-19時、土日祭日休み。港区赤坂5-3

●フジテレビ視聴者センター 電話 03-3353-1111, 9時30-18時、土日祭日休み。

新宿区河田町3-1、時間外には各担当者に電話してもよい。不在の時は翌日対応。

●テレビ朝日視聴者センター 電話 03-3587-5111, 10時-18時、土日祭日は留守電、港区六本木1-1-1。文書で送る場合は直接各番組係宛。

●テレビ東京視聴者センター 電話 03-3432-121, 10時-18時、土日祭日は留守電、港区虎の門4-3-12。

テレビ各局は、いずれもFAXによる受付はしていない。



## ■特集3

## 「クレヨンしんちゃん」と「ウゴウゴルーガ」

—最近のこども番組から—

中野 恵美子 (FCT会員)

## 「クレヨンしんちゃん」の登場

アニメ番組「ちびまるこちゃん」(フジ)は子どもにも大人にもなかなか人気があった。原作は少女雑誌「りぼん」に連載されていたもので、どこにでもいるような小学3年生の女の子が主人公だ。家族や学校、友だちの姿が子どもの目から描かれる。ほのぼのとした雰囲気とユーモアに満ちた佳作であった。テレビアニメの終了を惜しむ声子どもからも大人からも何度も耳にした。

その後登場した「クレヨンしんちゃん」の主人公しんのすけは5才の幼稚園児。両親との日常や幼稚園での生活が話の舞台であるところは「ちびまるこちゃん」と同じだ。原作は漫画アクションという大人の雑誌に連載中のもので、読者対象は明らかに大人の、主として男性である。アニメ番組はほとんどが子ども向けに書かれたものを素材としている。この点からしても「クレヨンしんちゃん」の登場は「ちびまるこちゃん」のヒットに便乗したもののように思える。

アニメ化にあたっては明らかに子ども向けの番組とされている。放映時間はゴールデンタイムの夜7時で、キャラクターグッズも大量に売り出されている。絵本や玩具はもちろんのこと、衣類、食器からかき氷器やソーセージ、ふりかけなどの食品に至るまで子どもの生活を取り巻くありとあらゆるものに「クレヨンしんちゃん」の絵がつけられて売られている。まさに洪水のように子どもの生活に押し寄せとどめようがない。しかし内容はほとんど大人向けの時のままであるところに大きな問題を含んでいると思う。

## 子どもにとっての面白さ

主人公は専業主婦の母親とサラリーマンの父親との3人で郊外に住む、ごく平均的な家族だ。双葉社発行の単行本には、「あくまでマイペースな思考方法がオトナたちを幻惑させる」「お小言は

右から左へ……みんなを笑わせる聞きまちがい多し」「オトナたちの弱点を見つけるのも大得意」「5才とは思えない言いまちがい多し」などと紹介される。日常の生活をおもしろおかしく描き、理屈や教訓めいたことなどもなく笑って見られるが故に人気があるのであろう。

数人の小学生に「クレヨンしんちゃん」のどこが面白いのか聞いてみた。「『すっかり忘れてた』を『こったり』とか『むっちり』とか言うのおかしい」「おかあさんのことを『みさえ』って呼んだり『妖怪ケチケチババア』といったりして面白い」などの感想だった。これまでのアニメにはあまりなかった発想やことば使いに面白みを見出しているようである。また家族像が権威的でなく夫婦も親子も、全体として友達のような雰囲気であるところに親しみを感じているようである。家族の関係は同じアニメ番組でも「サザエさん」とは対象的である。「サザエさん」は、波平を頂点とする家父長制が基本にあり夫婦、親子の序列が存在する。父親にはそれなりの権威があり、妻も子ども「お父さん・・ですよ」といねいなことば使いをする。「クレヨンしんちゃん」では「父ちゃん、あそぼ」「おらと母ちゃんはお友達ナノヨ」となる。「サザエさん」の人間関係の方に居心地の悪さを感じ、「しんちゃん」の方により親しみやすさを感じるのは今の子どもなら当然のことだろう。

たくさんの下ネタも子どもにうける一因であろう。お尻を出して踊ったり、チンチンプラブラなどもしょっちゅうである。要するにしんちゃんは、おりこうさんではなく適当に悪く、適当に面白い普通の子、どこにでもいる自分と等身大の子どもとして子どもたちに人気があるようだ。

## 大人にとっての面白さ

ある女性雑誌の投書欄に、「結婚はしたが子供



はほしくないと思っていた。……しんちゃんのような子だったらと思うと気が楽になった」というような内容のものがあった。子どもを育てるとは家族制度を作っていくことにほかならない。価値観が多様化し、子育てがむつかしくなっているからこそ、「気楽に付き合える面白い子」がうける。しかしその面白さは大人の目から見た面白さであって子どもの本当の姿ではないだろうか。

「ちびまるこちゃん」では子どもの目から見た大人の世界が描かれている。大人はドキッとさせられたり、なつかしさを感じたりする。子どもは身近な友だちの世界のように思い、共感する。しんちゃんのほうは大人の世界を子どもを使ってちゃかしている感じがする。もともとが大人向けの雑誌の漫画であるのだからある意味ではそれは当然のことだろう。

#### 大人のかわりにセクシャルハラスメント

先の単行本には「かわいい女の子なら決して見逃さない天才的な視力を持つ目」「キレイなおネエちゃんに会うと自然に口説き文句が出てくるナンパなお口。世の男性諸君もぜひ見習いたいアイテムだ」とある。ハイレグモデルの写真集が好き。レンタルビデオ屋でアダルトコーナーをのぞく。若い女性に「カノジョ、うちはどこ？」と声をかける。胸やお尻にさわったりも頻繁。幼稚園ではプールの日、女の先生の着替えを見にいこうと男の園長先生をさそう。プールの帽子のかわりに母親のパンティをかぶる。病院に見舞いに行くと「一番美人の看護婦さんは？」と聞く。海で女性に「お股におヒゲはえてる？」母親に対して「みさえ（母親）のスケスケおパンティ」「母ちゃんのおなかはブヨブヨ」等々……。

これらは子どものもっている天真爛漫さとはほど遠いものだ。明らかに大人の男性向けを意識して書かれたものだろう。大人では訴えられることもあるセクシャルハラスメントを子どもを使ってやらせている。ここには女性の人権と子どもの人権という二重の人権問題と差別の構造が存在する。前述したような目新しさや面白さに目をくらまされ「ちょっとぐらいいいじゃないか。そう目くじ

らたてなくても……」といった具合に、こうしたことが受けいれられていくとしたら問題は大きい。「不況で残業が減った男達の家に見るから、大人向けかも……」という見解もあるが、大人用ならば「セクハラ」も許されないし、まして子ども番組としてゴールデンタイムに放映することには問題がありすぎる。

#### 「ウゴウゴルーガ」の面白さと問題点

目新しさ、面白さが大人の目からのもので、その中に女性に対する軽視、蔑視が見え隠れしている傾向は早朝の子ども番組「ウゴウゴルーガ」（フジ）にも見られる。30分の番組は、長いもので3分、短いものでは15秒のショートストーリーでつながれる。ちょうどたくさんのコマーシャルを見ているような状態になり子どもの目はいやがうえにもひきつけられる。むづかしい屈辱や教訓などもなく気楽に見ていられるように作られている。

出演している男女2人の子どもはいわゆる優等生ではなく、大人を相手に適当なギャグやアドリブを飛ばす「面白い子」である。しかし自由に天真爛漫にふるまっているかという点必ずしもそうではない。収録しているスタジオにいる大人たちの反応をみながら行動する子どもの姿にもはや自由さはない。大人たちは露骨に「黄色いさくらんぼ、ウッフン」と歌わせてみたりして大人の笑いをとる。

ショートストーリーはテレビゲームの画面のような構成のものが多く、何の脈絡もなく夜の居酒屋の風景や、裸の女王の姿が一瞬映ったりする。「朝のごがく」というコーナーは30秒で世界各国の言葉を一言ずつ紹介するが、その言葉が「わたしをすてないで」だったり、「わたし待ってるわ」だったりする。背景となる絵にも裸の女性が出てくることもしばしばである。

いろいろな仕事を紹介するコーナーや、各界の専門家に聞くコーナー、アニメの「ノントンといっしょ」などでかろうじて子ども番組としての体裁を保っているが、全体としては大人向けの低俗な幼稚番組でしかない。



## テレビCMは鼻で見よう

船瀬俊介（消費・環境問題研究家）

「テレビはテレっとして見るから“テレ見”たい」九州の父は、かつて笑って言ったものだ。筑豊の片田舎の少年にとっては、そのころのテレビは極めて魅力的だった。「風小僧」「白馬童子」「矢車剣之助」…なつかしい番組が次々に浮かぶ。「番頭はんと丁稚どん」、続いて「トンマ天狗」でのもあったナ。おもしろいことに懐かしい番組を思い出すと、テーマソングも頭の中で聞こえ出す。「カーゼが呼ぶんだ正義の風を…」これは風小僧。「とんとんとんまの天狗さん…」この主人公の名は「姓はオロナイ、名はナンコウ」というのだ。なんとまあ、スポンサーの商品名、「オロナイン軟膏」をそのまま主人公の名前にしてしまう。のどかというか、厚かましいというか。

それが歌詞になっているから、年のはもいかない小学校2、3年の私たちは「姓はオロナイッ…」と黄色い声を張り上げて歌うという様になる。

当然、我が家ではオロナイン軟膏は、必要不可欠な常備品であった。母などひまさえあれば手にすりこんでいる、という有様であった。幼少年期のテレビでもう一つ忘れられないのはアメリカ番組である。

「サンセット77」「パパはなんでも知っている」そして「ラッシー」…etc

「パパは…」の番組では、「やさしいママ、次男のバド、末っ子キャシー…」と平和そのもののアメリカの家族の笑顔が写し出される。広いフロントヤードの大きな家、背丈ほどの冷蔵庫。ピカピカのキッチン。ゆったりとしたソファの居間。広々とした室内。インテリアの素晴らしさ。当然、ガレージには自家用車。それを、九州の田舎の我が家では、家族6人が狭い炬燵に肩寄せあって見入っていたのだ。ただポカンとして見るしかない。

圧倒的に豊かなアメリカ人の暮らし。しかし、そこには黒人差別などのアメリカの恥部は、巧妙にぬぐい去られていたのだ。またスラムや麻薬、犯罪、ホームレスなどのアメリカが抱える貧しさも、見事に隠蔽されていた。最近、日本映画のキ

スシーンはアメリカ占領軍の命令で、上映されたという“秘話”が公開されていた。考えてみるとスクリーン、スポーツ、スピードという3つのSは、アメリカの占領文化政策であったという。こうして我々は、戦後、まったく気付かないうちにアメリカ化されていったのである。

「ラッシー」は、ミツワ石鹸提供であった。「ワッワッワー、輪が3つ…」の歌声に乗せられて、気付いていたら合成洗剤のシャンプーで頭を洗うのが、当たり前になっていた。「ウィーンの朝も、オーストリーの朝も…ネスカフェで始まる」というCMが流されると、では、我が家の朝も…とばかりに番茶のかわりにネスカフェを飲むのが当たり前になってきた。するとクレープも卓袱台に鎮座する。とにかくテレビで宣伝すれば、コロコロ買う。

サントリーの男性の重厚な「ランラン、ララ…」のスキヤットが流れるとオールドがどこの家でも当たり前。ところが長じて日消連のスタッフとして活動しはじめ、これらがウソだらけであることに気付いて呆れた。シャンプーは「髪すこやかに！」どころか原液を振りかけるとネズミの毛がゴソッと抜ける皮膚毒物。「こんな真っ白」の合成洗剤は、テレビCMでは、汚れたのと新品とすりかえていた。「ファイト一発！」のリポビタンDは、ネズミの実験では水より劣るシロモノだった。「肌荒れを防ぐ」とCMされている化粧品が、じつはシミの素なのだから、笑い話というよりは詐欺犯罪ではないか。私たちが大手化粧品メーカーの社長を刑法246条の詐欺罪で告訴したら、化粧品工業会のトップは「詐欺といわれりゃ、まったくその通りでございます」とのたもうた。だから、私は主婦の方などにお話をするときには、「諸悪の根源はコマーシャル。みなさん、CMは片目で見ても見過ぎです。鼻でフフン『まだ、やってるワッ』と見るようにしましょう」と言うことにしている。



# FCT データ・バンク

## — 海外篇 —

●アメリカメディア教育事情～克服すべき問題点と今後の課題 The Tale of the Elephant—Media Education in the United States, by Kathleen Tyner, New Directions—Media Education Worldwide (London: British Film Institute, 1992)

アメリカにおけるメディア教育の定義はまさに十人十色と言える。教師たちは、ごく限られた実践体験からメディア教育全体を語ろうとする。それがアメリカのメディア教育の方向性を歪め、様々な問題点を生む原因になっている。筆者はそれらの問題点を4つの視点から分析・検討し、今後の課題として何を成すべきか示唆に富んだ提言をしている。さらに、「民主主義に則った市民の生活技術」を身につける手段としてメディア教育を位置づけることの意義も強調している。

### 1 保守的な教育理念(Protectionism)

アメリカ教育省は70年代後半、「クリティカルなテレビの見かた」に関する研究に助成金を出していた。テレビの中で描かれる暴力や性のステレオタイプが子どもにどう影響するか、それはアメリカ社会全体の大関心事でもあった。しかし膨大な資料と多額の資金をかけて作成された教材は、教師の訓練不足や実践化への無策により有名無実なものとなってしまった。そして80年代初期、折からの経済不況によって、「クリティカルなテレビの見かた」の意義は軽視されることになり、その研究も衰えていった。子どもCMや子ども番組の規制も一部を除いて排除されることになった。このような状況の中、保守派のメディア教育家たちはテレビなどのポップ・カルチャーには目もくれず、芸術特に文学の重

要性ばかり強調した。「スイッチを消し本を読み、見るなら教育番組を」保守的な教育理念は子どもの健康問題にまで及んだ。子どもの肉体的・精神的健康を守るため、子ども番組の新たなガイドラインが法律化された。アメリカの子どもが極端に太っているのは、テレビで繰り返し広告されるジャンク・フードを食べ、運動もしないでテレビにかじりついているからという報告もある。テレビはこうして消費文化に対する苛立ちの避雷針にされてきた。消費文化に対する攻撃は、民主主義における個人の権利と相反するが、その矛盾点をとやかく言うより、コンシューマリズムを代弁するテレビを槍玉にあげる方が手取り早いのである。

### 2 テクノロジー教育

アメリカの実学主義、技術崇拜に基づいて発展してきた職業教育。そのハイテク版がテクノロジー教育とも言おうか。もともとメディア教育もこの範疇に入る。コンピューターやビデオなどの最新ハードウェアに依存した教育のあり方には、社会的・文化的視点が欠如している。つまり技術と人間の関係を問う「コミュニケーション」の研究が今まさに必要とされているのである。

### 3 メディア・アート教育

メディア・アート教育の目標は自己表現とクリエイティビティである。この分野では実践教育(hands-on)が盛んで、生徒たちにも人気が高い。学校以外の団体や芸術家、作家、映画やビデオの製作者などを授業に招き製作活動に重きを置いた実践教育は、生徒の自尊心を高めるのに役立っている。しかし、その自尊心は達成感に基づいた自己満足の域を出ておらず、社会へ還元できるだけの効果は得られていないのが現状だ。また招かれるアーティストが学校外の人間であるため、カリキュラムの全体像を十分に把握しておらず、中途半端な授業に終わってしまう危険性も高い。実りある授業実現のために

は、学校内外のコミュニケーションをさらに円滑にすること、そしてアーティスト自身もクリティカルな視点を大切にすることが望まれる。

### 4 デモクラシー教育

教養ある選挙民は民主主義にとって不可欠であり、民主主義社会において良き市民であることを生徒に教えることが、メディア・リテラシーの最終目標である。しかし、学校そのものが民主的に運営されていない以上、民主主義社会における生活技術を教えようと思っても効果は期待できない。この現実と理想のギャップこそ教育改革の持つ問題点の核心なのである。マスメディアの情報をクリティカルな目でとらえることの意義は教科書から読みとれる。アメリカ社会の文化的多様性を全く反映していない教科書は、メディア教育の格好の教材と言え。演繹的な議論のテクニックでメディアに対するクリティカルな目を養うには、ディベートが最も適している。幅広い解釈が可能な生徒中心の授業こそ、メディアを読み解く真の力を育み、民主主義社会の良き市民へのワンステップになるはずである。

### ●克服すべき問題点と今後の課題

アメリカの学校カリキュラムにおけるメディア教育には、次のような問題点がある。①メディア教育者の育成コースが不十分②既存のカリキュラムや大人数クラスのため、時間的余裕がない③ポピュラー・カルチャーの軽視④各学問分野による知的交流の欠如(学の孤立主義)など。今後の課題としては(a)アメリカの教育の根底にある民主主義に則った市民の権利をメディア・リテラシーの最終目標として強調し続けること(b)各分野の意見交換の場を増やし協力体制を確立することなどがある。急速に変化するコミュニケーション形態に教師たちが柔軟に対処できるようリテラシー論を、社会との関連性のなかで培っていくことが今要求されている。(抄訳:猪股富美子)



# FCT データ・バンク

## — 国内篇 —

●徹底討論・犯罪報道と人権、メディアと人権を考える会編、現代書館、1993年5月刊。

弁護士（梓澤和幸）、新聞記者（飯室勝彦、小川 一）、放送記者（倉澤浩雄）、マスコミ研究を専門とする大学教員（田島泰彦、服部孝章）の「問題意識を共通にする者同志」の6人で2年前から続けてきた研究会の記録。次のようなテーマで各人が行った基調報告と問題提起をうけて、全員で熱心に討論しており、それも収録されている。実際、この討論の部分が、各々の専門領域からの経験を率直に語っていて、読んでいて大変おもしろい。「人権」といえば、当然、マスコミの読者、視聴者、市民…の視点、立場からメディアを見なければならぬが、それが現場ではどれほど難しいかを、一読するなかで痛感させられる。しかし、同時に、改革の方向を真剣に議論していて、前向きである。

1章・犯罪報道と現場から、2章・事件報道とテレビ、3章・公安取材、ある特異な体験、4章・歩み始めた改革の道、5章・弁護士の立場から見た犯罪報道、6章・無罪推定の社会化への報道機関の役割、7章・「報道被害」をどう救済するかプレス・カウンシルをめざして。報道と人権を考えるための文献ガイドも。(M)

●テレビの明日、岡村黎明、岩波新書、1993年5月刊。

日本のジャーナリズムは世界的視野、世界史の見識を欠いたところに最大の欠陥がある、という前提に立って、日本のテレビの現状と将来を検証した書ともいえる。世界的視野に欠けるのはジャーナリズムだけの問

題ではなく、政治、経済、国民のすべてが井の中の蛙的発想で来てしまっていることを考えれば、テレビはこれを増幅し、反映しているとも考えられる。テレビ40年という節目にテレビをあらためて見直したい、考えたいという意図のもとに、テレビの創業から関わってきた著者の総括にもなっている。

内容は7章から成り、世界のテレビ、日本のテレビ、ジャーナリズムとしてのテレビ、ビジネスとしてのテレビ、ネットワークとしてのテレビ、エンタテインメントとしてのテレビ、ニューメディアとテレビ、グローバルテレビの時代へ、となっている。巻末にテレビ40年を社会的な状況と関連されて表化してあるのが重宝。視聴者についての言及、考察が不足しているが、テレビの問題を知るとっかかりには解りやすい。(D)

●アメリカ・TVスコープ、隅井孝雄、リベルタ出版、1993年刊。

同じ著者の前作『マンハッタンTVのぞき窓』の続編とも言うべき本書は、ニューヨークに住んでアメリカのテレビを定点観測している、ともいえる内容である。

例えばFCT発足のきっかけともなったアメリカのACT生みの親ベギー・チャーレンが昨年1月に引退しACTの活動が終わったことを紹介して、彼女の功績をこう述べている。ブッシュ大統領も拒否権を行使できなかった「子どもテレビ法」が92年1月に発効した成果を見届けての解散であること。この法の成立により子ども番組のCM量が制限され、司会者が番組の中で商品を宣伝するのをやめさせ、おもちゃ会社の自社商品や人形を使った番組をやめさせること、などが可能になった。俗悪番組追放運動には加担せず、番組の多様性を追及した一貫性はみごとだった、と述べている。断片的には新聞などで知っている情報について、こぼれ話を含めてアメリカで日

本人が見たり聞いたりした視点が興味深い。内容は3章から成り、1章は前作の続編、中絶ドラマをめぐる論争、これがスパイ行為シーンだ、やらせ写真に非難、衛星アンテナでTV局の舞台裏がまる見え。2章はアメリカTVスコープとして蒸発する視聴者、アメリカ版芸能情報番組花盛り、ヒューマンな離婚法廷ドラマが人気上昇他。3章はニューヨーク通信として、自然保護の先頭に立つミュージシャンたち、アメリカの教育改革、ベトナムはまだ終わっていない他。(T)

●特集・テレビニュースとは何か、「新聞研究」NO.503、1993年6月号。

新聞とテレビのジャーナリズムとしての違いは何か。次の9本の論文を並べ、考える手立てを提供している。1)「テレビニュースになる」論・後藤和彦、2)テレビ的伝え方を模索するニュースの歴史・松岡新児、3)生中継ジャーナリズムの現在・岡村黎明、4)真実を迫る流儀の差—新聞記者のみたテレビニュース・田所竹彦、5)具体性を追及するテレビニュース—テレビと新聞の「住み分け」状況・園田矢、6)「映像依存主義」はテレビニュースを育てない・信国一郎、7)視聴者の立場から見たテレビニュース・鈴木みどり、8)新たなニュース供給システムとしてのCNN・小田原敏、9)「当事者」がナマで語るとき—サンデープロジェクトの作り手として・山本康弘/蓮実一隆。(F)

●放送を語るつどい'92の記録、「放送トライアングル」第3号、放送を語る会1993年5月号。

放送労働者、視聴者、研究者をむすぶ、と掲げて'92年11月21、22日に開かれた集会の記録である。第4回全国集会として全体会、基調報告「川口体制の一年」、講演「KBS労組のたたかい」「過労死を防ぐた



めに」そして「報道や放送番組のありかた」「職場はどう変わったか」「受信料制度とハイビジョン」の3つの分科会と全体討議、という構成のもとに、NHK、民放、新聞労働者、ジャーナリスト、視聴者などが集ってNHKの問題などを熱心に話し合った。と報告されている。視聴者は永久に受け手なのか、市民を発言者に組み込んでいく手立てはないのか、という問題提起が出されたのに、現場で働く労働条件や制作条件など切実な現実問題が優先され、放送の理念、あるべき姿と制作、労働条件に代表される現実の課題との間には大きなギャップがあることを認識した。

放送内容への市民参加と発言をどう保障するか、それは「語る会」の重要なテーマとしてこれからも論議していく必要がある、と報告されている。巻末にFCTの「テレビ視聴者の権利憲章」が掲載されている。(D)

●日本は最先端かそれとも世界の孤児か、「放送レポート」1993年7・8月号。

4月24日に開かれたメディア総合研究所開設準備委員会主催の「BSシンポジウム」の中で行われた第一部パネルディスカッション「BSは本当に必要か」をまとめたもの。

パネリストは磯崎弘幸(民放労働書記長)、桂敬一(東大社会情報研究所教授)、須藤春夫(法大社会学部教授)と司会の青木貞伸(放送評論家)。

BS(衛星放送)とCS(通信衛星を使った放送)それに都市型CATV、ミニFM放送局と多メディア多チャンネル時代を迎え、放送行政の不備による混乱の状況をどう整備して行けばよいのか。BSを基幹放送とするというありようには多くの疑問が残されており、なかでもNHKのハイビジョン構想の問題とも深くからまっている、など放送界の混乱の状況が各立場からこもごもに報告されている。放送における公共性

の意味も電波が無尽蔵に使えるようになれば当然変わってきて、公共性とはだれでもその情報空間に参加出来るようになることであろう、と述べられている。マルチメディアの時代の現状と展望を知る資料ともなっている内容の濃い報告。(T)

●不思議の国・NHK①②、「マスコミ市民」1993年5月号、6月号

①は「やらせ」を招くジャーナリズムの構造、として渡辺武達(同志社大学教授)が、NHKスペシャル「奥ヒマラヤムスタン」のドキュメンタリーについて、やらせの定義を次のように規定している。第一、事実の集積としてのドキュメンタリーを自称する番組、第二、個別の事実をならべながら全体としての巨大な嘘をつくりあげる、第三、なんらかの意図をもって世論をミスリードするよう制作される社会派番組や報道、ニュース番組。ディレクターやプロデューサーにはたえずやらせの誘惑が襲う、としてこの事件の詳しい検証を行っている。この論文のあとにはNHKムスタン取材について緊急調査委員会の報告抜粋が掲載されている。②では編集部取材でNHKの事業運営計画の主な事項をとりあげ、受信契約数、受信料、国際放送についてなどの資料が提示されている。

NHKという巨大な組織の諸問題について詳しい検証を加えていくことは今重要な意義がある。

この他に、FCT連載の「メディアスコープ」には、「体験して知るインドのマスメディア事情」(鈴木みどり)、「妥協的ではないテレビ報道を応援する」(竹内希衣子)が5月、6月号に掲載されている。(K)

●演出めぐる論議に学ぶ、是枝裕和、「月刊民放」1993年5月号。

特集「ドキュメンタリー制作の手法と今日的課題」の中の1本。著者はテレビマンユニオンのディレクターである。ドキュメンタリーは面とし

てカメラで切り取られたものだからそこにいる人々によって共有された時間と空間の記録である。だとしたらたかだか1カ月位通ったとてカメラを意識しない取材など出来るものではない。異物としての自分をきちんと描き、その関係性をドキュメントしていこうというのが精一杯の誠実さ、正直さだと自分は考える。

として、NHKが放映したホスピスの末期がんの女性の死を迫るドキュメンタリーを例にあげ、静かに亡くなった女性の死の表情をとらずに「入室ご遠慮下さい」という病室の札を撮り、そこに女性の故郷への想いを少女時代の再現シーンで重ねて表現としての死を昇華させた演出に違和感を覚えた、と書いている。死から目をそらした間接表現という演出を「演出の暴力」ではないか、故郷に帰りたくなかったかもしれない女性への思い込み演出は、やらせとは背中あわせの問題かもしれないが、こうしたことは基準とか許容の問題ではなく、演出者の誠実さが問われることだと思う、と述べている。思い込みの演出、感情過多のナレーションに彩られたドキュメンタリーを目にすることが多いだけに、演出者への大切な問題提起になっている。

この特集は他に「TVドキュメンタリーの可能性」(磯野恭子)、「正攻法の取材方法へ立ち帰る」(吉永春子)、「テレビが迎えた自己検証のとき」(日下雄一)、「メッセージをどのように伝えるか」(斎藤直宏)他三篇を掲載している。(T)

●座談会・皇室報道の読み解き方、「ヒューマンライツ」1993年6月号。

特集として皇室報道の読み解き方をテレビ編と女性週刊誌編にわけてあり、テレビ編はFCTスタッフにより4月12日の「納采の儀」をチェックした結果の話し合いをまとめてある。皇室報道を読み解くためのチェックシートを開発中のFCTスタッフが各局担当制でモニターした4月12



日の皇室報道について、たった3分の儀式を6時間にも引きのばして見せた内容といえ、過去の皇室行事のVTRをくり返して見せ、皇室報道には常連のタレントたちのあでやか、お美しいといった贅美に終始した番組がほとんどだったことを報告している。視聴者としては様々な受けとめかたをしているはずなのに、テレビに出てくるのは「国民が等しく待ちのぞんでいた」という首相コメントに代表されるおめでとう一色。市民として皇室を理解するために必要な情報があるはずなのに、例えば経費のことについてなど、議論にならない。マスメディアの報道のしかたをしっかりとチェックし、どこに問題があるのか、今後の皇室報道のためにもきちんと読みとっていく必要がある、とまとめている。

女性週刊誌編では納采の儀のもつ社会的、政治的意味にはふれずにラブロマンス仕立てにし、ファッションブルな存在としての側面のみ強調する女性週刊誌のとりあげかたを問題にしている。(K)

#### ●雑誌文化の中の女性学、諸橋泰樹、明石書店、1993年4月刊。

著者は「女性雑誌研究会」(代表・井上輝子)にあって女性学の視座から女性雑誌やレディスコミックの内容分析調査を続けてきた。その成果を雑誌、研究誌に発表してきたものなから次のようなものを集め、加筆して一冊の本にまとめた。

1章・女性雑誌の動向を下部構造から読む、2章・女性雑誌が主張する新・性役割を読む、3章・化粧品広告の日・米・メキシコ比較、4章・太る痩身・整形広告の三国イデオロ

ギー、5章・レディスコミックの「刺激」と「対」の成就、6章・レディスコミック読者の意識構造、7章・レディスコミックに反映された男性価値、8章・「有害」コミック問題とその報道、9章・大学におけるマスコミ・出版教育と採用問題。

女性雑誌やレディスコミックの主要な読者層は20～30代の若い女性で、能動的に買い求め、読んでるのであり、テレビの視聴者のように特に見たくないのになんとなく見ている人も多い、というような接触態度とは基本的に異なる。この点に留意して本書を読むと、テレビの分析調査から得られる結果よりも一層深刻な性差別、性の商品化が女性読者に受け入れられているという現状に、改めて、大きな問題を感じるだろう。現代文化イデオロギーの解明に女性雑誌分析から得られるデータは不可欠である。(F)

#### ●マスコミと差別語の常識、田宮武、明石書店、1993年3月刊。

「マスコミが部落問題をはじめとする差別問題にかかわるとき、差別をなくすための表現活動を行っているのか、それとも差別につながるような表現活動を行っているのか、そこが評価の分岐点になる」(おわりに)と述べる著者は、このふたつの表現が未分化のまま混在している日本の現状の下で、部落差別問題を中心に、差別をなくす取り組みを続けてきた。本書はそのような立場から書かれた論考を集めている。

・部落問題との出会い—はじめに、1章・マスコミにみる差別問題—放送と差別語の禁句集作成／マスコミの表現と社会的影響／マスコミの差

別問題報道を考える／マスコミ表現の中の女性、2章・文学の中の差別問題—言葉の社会性／差別されるものの苦しみ、3章・部落差別観を考える—地対協「意見具申」の糾弾論を読んで／差別落書問題の視点／大学生の部落差別観を探る、・差別につながる表現と差別をなくす表現と—おわりに。FCTの子ども番組主人公分析が1章の「マスコミ表現の中の女性」で紹介されている。(M)

#### ●減びゆく思考力、ジューン・ハーリー著、大修館書店、1993年3月7版。

著者はアメリカの教育心理学者、昨年3月に翻訳出版されて以来じわじわと売れて、子どもの教育に関わる人々に読まれている。アメリカ人は読み書きや口語の表現力、つまりリテラシーを重視する国民である。

コンピュータと映像のリテラシーが日常生活や教育に入った結果子どもたちは考えない、直感で判断する多肢選択形式でない答えられず、人の話を聞くのは下手、つまり思考力が非常に低下してしまった。

テレビは脳と学習にとって危険である、としてともかく親たちにテレビと子どもの関わりで注意すべき提言を掲げている。本書ではとくに人気番組「セサミストリート」について一章を設け、この番組が教育的なよい番組ではなく、きわめて貧弱な言語モデルしか提供していない、視覚的な刺激や騒々しさやドタバタコメディが深い意味のある会話を押しつぶしてしまっている、として教育的商業主義に汚染された番組と断じている。日本のテレビが子どもに与えている影響を考察する手がかりを提供しているともいえる。(T)

FCT市民のテレビの会はテレビの作り手、視聴者、研究者が立場を超えて集い、より良いテレビの実現をめざして実証的研究と実践活動を積み重ねていくためのひろば＝フォーラムとして1977年10月に創設されました。その運営は創設以来、事務局スタッフ及び会員のボランティア、全国の会員からの会費とカンパ、定例のFCTフォーラム(公開の研究会)参加費、および調査研究報告書や季刊情報誌 fct GAZETTE(ガゼット)等のオリジナル出版物販布からの収入によって行われています。

「ガゼット」の年間購読のお申し込み、バックナンバーのお問い合わせ、FCT出版物や入会などについてのお問い合わせは事務局へハガキまたは電話(03・3721・8694)でどうぞ。